

事務事業名		共同利用漁船等復旧支援対策事業			☐ 実施計画登載事業	☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間					
	施策名	19 地域活力を担う水産業の振興								
	基本事業名	03 漁業経営の安定化			予算科目					
根拠法令					会計	款	項	目	事業	
所属	部課名	農林水産部 水産課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成23 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	01	06	03	02	02
	課長名	千葉 英彦								
	係名	振興係	電話	27-3111						
	担当者	鈴木 唯斗	内線	377						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・国の東日本大震災復旧・復興支援事業。 ・共同で利用する漁船及び定置網等の漁具の復旧支援対策を行い、漁業者の生活の安全確保と地域の生産力の回復、復興を目的とし、漁業協同組合等が被災した漁船および漁具の新造及び修復に要する費用に対して支援する補助事業。当該事業は、共同利用小型漁船建造事業と共同利用漁船等復旧支援対策事業の2つの事業メニューがある。 ・当該補助事業は、事業主体に事業費の8/9以上(うち国1/3、県4/9、市1/9以上)を補助する。 ・事務の流れは概ね次のとおりである。 要望調査→県へ実施計画書の提出→実施主体へ補助金内示→県へ補助金申請→県と補助金交付契約の締結→実施主体へ補助金交付決定通知→事業実施(着手～完了)→実施主体からの請求に基づき補助金交付→県へ補助金交付請求						総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金		
								都道府県支出金		
								地方債		
								その他		
								一般財源		
								事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間									
	人件費計(B)	0								
	トータルコスト(A)+(B)	0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 各漁協が実施した事業に対して、補助金を交付した。			⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)							
			名称						単位	
			ア	補助対象新造船計画隻数					隻	
			イ	補助対象中古船計画隻数					隻	
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 24年度及び25年度繰り越し分の事業を引き続き行い、26年度事業を開始している。また、繰り越し事業は今年度末に事業打ち切りが予定されている為、今年度中に終了を計画している。			ウ	補助対象定置漁具等計画数					ヶ統	
			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)							
			名称						単位	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 事業主体(共同利用漁船等復旧支援対策事業を実施している漁業協同組合)			カ	事業主体数(漁業協同組合数)					組合	
			キ							
			ク							
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 漁業者の生活の確保とともに漁業の回復を図る。			⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)							
			名称						単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安定して漁業を営む。			サ	補助対象新造船支払済隻数					隻	
			シ	補助対象中古船支払済隻数					隻	
			ス	補助対象定置漁具等支払済数					ヶ統	
(2) 総事業費・指標等の推移										
			単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円		531,653	2,000,543	1,683,636	17,033	942	0
		都道府県支出金	千 円		708,876	2,667,395	1,262,727	22,711	1,256	0
		地方債	千 円							
		その他	千 円		177,237	666,842	420,909	5,678	315	0
		一般財源	千 円		177,234	666,842	420,909	5,678	315	0
	事業費計 (A)		千 円		1,595,000	6,001,622	3,788,181	51,100	2,828	0
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間		240	480	500	100	100	0
		人件費計 (B)	千 円		960	1,920	500	100	100	0
		トータルコスト(A)+(B)		千 円		1,595,960	6,003,542	3,788,681	51,200	2,928
⑤活動指標		ア	隻		1,082	1101	1,107	1,112	1,113	0
		イ	隻		377	320	322	324	325	0
		ウ	ヶ統		98	145	147	147	147	0
⑥対象指標		カ	組合		4	4	4	2	2	0
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	隻		0	869	1,096	1,112	1,113	0
		シ	隻		0	275	319	324	325	0
		ス	ヶ統		0	120	147	147	147	0

事務事業ID	1518	事務事業名	共同利用漁船等復旧支援対策事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成23年に発生した東日本大震災により、市内の漁船の大部分が被災。これを機に平成23年度、事業が創設された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
年々、復旧・復興が進み、事業の要望件数は減少している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
水産業は当市の産業の中核を担うものであり、そのため、漁業者をはじめとする、水産業に関連する業者も多く存在する。その中で東日本大震災による影響は、かなり深刻であるため、事業の継続を要望する意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事業により、被災した漁船等が復旧し、漁業が再開されることで、将来的に漁業経営の安定化に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 県の交付金交付要領で、事業実施主体に対して市が補助を行う場合に、市が嵩上げ補助(事業費の1/9以上)が必須であり、市が関与しなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 この交付金事業は、国の実施要綱に実施主体、実施要件等が定められており、対象・意図を限定、追加することはできない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 東日本大震災で被災した漁船を復旧・復興整備するもので、年々、事業件数が減少することは仕方のないことである。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・当該事業は、県から事業主体に対して直接交付する仕組みになっていないことから、事業を廃止・休止した場合、漁協等は事業を実施できなくなる。 ・事業の廃止・休止は、当市水産業の復旧・復興を遅らせることになる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他にも震災復旧・復興関連の補助事業はあるが、補助対象が異なることから、統廃合・連携はできない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費の削減は、漁協等の復旧・復興を遅らせ、市内水産業への影響が懸念される。 補助金以外の事業費については、極めて低額であり、事務事業執行上必要最低限の額であることから、削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 国・県・市の補助金交付要綱に基づき行われる事務手続きであり、今以上の効率化は望めない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業費の1割は事業主体が負担しており、被災の現状を考えると、適正な負担と判断する。

事務事業ID	1518	事務事業名	共同利用漁船等復旧支援対策事業
--------	------	-------	-----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 現在は、漁船・漁具等の復旧が進み、多くの漁船が建造されたが、震災当時は早急な対応が迫られるとともに、判断材料が無かった為、当時既にほとんど操業していなかった漁船やこれから操業する予定があまり無い漁船も事業に含まれている恐れがある。そのために事業を中止することは、復旧の妨げになる恐れがあるため、事業終了後の精査が必要であると考えられる。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 当市の基幹産業である水産業の被災状況を見ると、水産業振興を図る上で当該事業は欠かせないものであることから、計画的に復旧・復興を行うよう事業主体に指導していく必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 計画的な復旧・復興を行うよう事業主体に指導していく必要がある。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	水産課	千葉英彦
-------	-----	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

水産業振興を図る上で当該事業は欠かせないものであることから、漁協等と協議をしながら事業を進める。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

現状どおり継続して事業を実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項